



# ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

## 新しい自分との

## 出会いや発見がきっとある



## 目次

●平成14年度事業計画の概要…………… 2	●会員の声…………… 6
●道民の生涯学習への機運の高まりの中で… 3	●視聴覚センターからのお知らせ…………… 6
●平成13年度生涯学習実践記録・ 研究論文入選者発表、審査所感、 最優秀作品…………… 4・5	●まなびの広場からのお知らせ…………… 6
	●新会員紹介…………… 6

## 平成14年度 事業計画の概要

3月26日（火）に開催された平成13年度第2回評議員会・理事会において平成14年度の事業計画が承認されました。事業の概要は次のとおりです。

事業名	内 容
1. 生きがいづくり生涯学習促進事業 「人生を共に豊かに過ごすために」 (継 続)	期 間 5月～12月 会 場 全道14教育局管内毎1会場 参加対象 一般道民 人 員 1会場100人 延べ1,400人 (聴力障害者の方々のために、手話通訳者を配置する。)
2. 広報紙発行 (継 続)	※ 年4回発行 1回 1,400部
3. 青少年自然体験活動指導者養成講座 (継 続)	期 日 前期 8月～9月(3泊4日) 後期 2月～3月(3泊4日) 会 場 全道4会場(夏3会場・冬1会場) 参加対象 大学生・一般成人で自然体験学習の指導者を志す人。 人員全道 212人
4. 生涯学習海外研修 (継 続)	期 間 9月下旬から10月中旬 12日間 場 所 欧州(4か国程度) 参加対象 社会教育関係者及びその他の希望者20人～25人
5. 社会教育関係団体等連絡会議 (継 続)	年1回 開催
6. 生涯学習研究論文等募集 (継 続)	募集期間 10月～12月 最優秀作品 1編 優秀作品若干
7. 特選視聴覚教材鑑賞 (継 続)	開催期間 8月、11月(年2回) 各期1週間 各日1時間 会 場 かでる2・7 参加対象 一般道民
8. 生涯学習ボランティアスタッフ自主 企画事業(地域づくり人づくり) (継 続)	期 日 6月1日～3月31日 活動内容 当協会主催事業の企画運営にあたる 企画事業 11月中旬 会 場 かでる2・7
9. ほっかいどう生涯学習ネットワーク (道民カレッジ)事業 (継 続)	○主催講座 道民カレッジ「大学放送講座」 講座回数 6回 放送開始 14年10月 参加者 道民 スターリング 9地域実施 参加者対象 放送講座受講者と一般住民 受講者人数 3,000人 ○道民カレッジ連携講座 講座回数 350講座 受講人数 10,000人 大学 約80講座 市町村 約150講座 専各 約70講座 その他 約50講座
10. 生涯学習情報資料の展示・提供 (まなびの広場) (継 続)	○生涯学習情報資料の展示・提供 ○インターネットを活用し、学習情報を提供 ○ふるさとコーナーでは、各市町村の広場広報誌・パンフレットの展示 ○生涯学習関係団体等の活動紹介及び発表の場を提供
11. 教材貸出 (継 続)	○視聴覚教材貸出
12. 自主教材制作 (継 続)	教材制作
13. 地域視聴覚教材制作研修講座 (継 続)	期 間 9月4日～9月6日 3日間 会 場 札幌大学 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者・視聴覚教材制作に関心のある道民
14. ビデオ映像教材制作専門講座 (継 続)	期 間 6月18日～6月20日 3日間 会 場 かでる2・7 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者、市町村広報担当者
15. 教材目録作成 (継 続)	○視聴覚教材目録(追録版)の配布
16. 教育関係公益法人研修会等 (新 規)	○研 修 会 年 1回 ○会報の発刊 年 2回(2月、10月) ○相 談 ○調査研究

## 道民の生涯学習への機運の高まりの中で

昨年9月に開講した道民カレッジは、お陰様で関係機関・団体等のご支援により、表1のとおり全道各地で多くの皆さんに入学していただきました。また、年齢層も表2にありますように10代～80代と幅広く、最高年齢は92歳と高齢になってもなお学習意欲に燃え生涯学び続けたいと頑張っておられます。

特に30代～60代の入学者も多く、職業と結び付いた学習機会への参加や、考古学・語学などより専門的な学習機会への参加が見られます。

表1 管内別学生数

3月15日現在7,114人（男3,165人、女3,949人）

石狩(札幌)	渡島	檜山	後志	空知	上川	留萌	宗谷	網走	胆振	日高	十勝	釧路	根室
2,356人(1,488)	467人	760人	98人	214人	502人	364人	351人	147人	218人	557人	279人	522人	279人

表2 年齢別学生数

年代	学生数
10代	142人
20代	747人
30代	517人
40代	915人
50代	978人
60代	1,319人
70代	1,279人
80代以上	224人
不明	993人
合計	7,114人

表3 職業別学生数

職業	学生数
会社員	287人
学生	342人
公務員	1,454人
自営業	163人
主婦	903人
団体職員	90人
無職	2,579人
その他	615人
不明	677人
合計	7,114人

表4 コース別講座数

	市町村	高等教育機関	専各	各種団体	関係機関
ほっかいどう学コース	5団体 6講座	4団体 6講座		6団体 7講座	1団体 6講座
能力開発コース		4団体 7講座	15団体 23講座	1団体 2講座	11団体 44講座
環境生活コース	8団体 11講座	10団体 19講座	2団体 2講座	6団体 9講座	2団体 3講座
健康・スポーツコース	2団体 2講座	4団体 10講座	1団体 1講座	1団体 1講座	
教養コース	7団体 7講座	4団体 8講座	11団体 13講座	5団体 11講座	3団体 4講座
延べ団体数113団体 連携講座数206講座	22団体 26講座	26団体 50講座	29団体 39講座	19団体 34講座	17団体 57講座

また、大学放送講座を担当された講師によるスクーリングが、札幌会場を含め、全道で9か所実施されましたが、いずれの会場も多数の受講者が講師の講義に熱心に聞き入っておりました。

実施日	開催地	参加者	講師
11月29日(木)	根室市	78人	北海道薬科大学教授 早瀬 幸俊
12月13日(木)	北見市	67人	北海道薬科大学教授 早瀬 幸俊
1月22日(火)	帯広市	82人	北海道工業大学助教授 倉原 宗孝
2月1日(金)	旭川市	119人	北海道医療大学教授 横井 寿之
2月14日(木)	函館市	121人	北海道大学教授 木村 純
2月15日(金)	浦河町	51人	北海道医療大学教授 横井 寿之
2月26日(火)	留萌市	55人	札幌大学教授 八 欽 幸信
2月28日(木)	札幌市	161人	北海道情報大学教授 伊藤 佐智子
3月5日(火)	稚内市	46人	札幌大学教授 八 欽 幸信



函館会場のスクーリングの様子



留萌会場のスクーリングの様子

この様にスタートしたばかりの道民カレッジですが、今後も主催講座の充実を図ると共に、市町村や高等教育機関・産業界等との連携を深めながら、生涯学習の学園として道民の皆様方の生涯学習を支援して参りますので一層のご支援をよろしくお願ひします。



平成十三年度 生涯学習実践記録・ 研究論文入選者名簿

最優秀賞

— 会社を二年早く卒業、

そして学校に入学 —

札幌市西区 山本 孝次

優秀賞

開拓の村ボランティア活動を通して

札幌市北区 川口 喬

わずか十分のために

— 農試公園おはよう会の

活動を中心に —

札幌市西区 新川 寛

わたしの生涯学習

北海道音更高等学校 二年

森 謙次郎

子どもの成長を育む地域づくり

標茶町 大沼 良治

審査所感

審査委員長 高倉 嗣昌

今年度の応募数は、昨年度より二編少ない十四編であった。これはここの十五年で三番目に少ない応募数である。

三つの応募テーマのうち十編は「わたしの生涯学習」で、「わがまちの生涯学習」、「これからの生涯学習」が各二編となった。

応募を地域別に見ると、札幌市在住者が三分の一強、札幌市以外の市部在住者が三分の一弱、町村部在住者が三分の一強であった。

女性からの応募は二編で昨年を下回った。年齢別では、十七歳から七十五歳まで幅が見られたが、五分の四近くが六十歳代から七十

歳代の方から寄せられたものとなった。職業別では、無職が六人、主婦・地方公務員が各二名、残るは税理士、団体役員、技士、高校生である。

作品の選考基準は例年と殆ど変更はなく、生涯学習に関する理解度、実践活動の実生活への定着度や影響力、将来への展望や提言の内容、記述・論述の流れ、論旨の一貫性、文章力などを総合的に評価した。

最近の作品は、字句や文章の吟味不足のものは少なくなったが、字数が応募要件に適合しない作品の増加傾向を指摘しておかなくてはならない。内容は、ここ数年の傾向を引き継いで、向上していると評せられる。

入選作品は上段に示した五編である。「わたしの生涯学習」から四編、「わがまちの生涯学習」から一編で、「これからの生涯学習」からは入選作品がなかった。

以下入選作品の評価を簡潔に記述する。最優秀作品は全文、以下に掲載されている。これは、会社の合理化がらみで予定を早めて会社を退職した人が、生涯学習に対する意識を深め、視野を広げて行き、どっぷり学習生活に浸っていく過程がえがかれている。仕事を失った人々が増えている昨今、生涯学習に生きがいを見いだし、力強く生きていくさまは、大変勇気づけられるものがある。

優秀賞の川口喬氏の作品は、開拓の村のボランティア活動での専門性を深めるためになされた学習過程を通じ、目標を立てる計画的な学習達成の重要性を認識させてくれる。新川寛氏の作品は、公園での朝の体操を一人黙々と継続していくうちに、周囲の人々に影響を及ぼし、活動の輪が広がっていくさまがえがかれており、説得力がある。

高校生の森謙次郎君の作品は、アクシデンントで体に障害を持ちながら、前向きに生きようとすること、人間として成長していくさまをよく読み取らせてくれる。

大沼良治氏の作品は、標茶町を舞台として展開される住民の学習活動と、子ども達の成長発達とをうまく関連づけて記述している。論文としてもよく形式が整っている。

他に字数の関係で選外になったが、「わがまちの生涯学習」として本別町の生涯学習推進の方策をえがいた大橋堅次氏の作品は力作であった。より深まった本別町の活動をふまえ、後日の再チャレンジを期待したい。

平成十三年度 生涯学習実践記録と研究論文最優秀作品

— 会社を二年早く卒業、

そして学校に入学 —



札幌市西区 山本 孝次

平成十二年一月会社を丸二年を残して早期退職することになった。会社から相談がきた時、「自分は縁があつて入った会社なので、定年まで会社勤めするのが男の勲章だ。少し位待遇が下がったとしてもそれは我慢ができる。」が持論であつた。

しかしながら、会社の提示した条件を良く良く考えてみると、それは二年分を考慮するのだから、決して悪くはない筈。多分これにはある程度以上の企業で、かつ、よほど人減らしを強行せざるをえないので、好条件を出してきたと判断し、家族とも相談の上、決断をした。

退社してみても早速驚いたのは、保険関係、引落し等いかに自分で行なう手続きが多いことかと身に染みた。会社勤務の場合、総務関係を専門に行なう人が居たからだと初めて会社に感謝の気持ちになったものだ。

さて、会社を卒業してからの活動をどうするか?。今回の決断が失敗に終わらせないために、何をやるべきか?。色々思案の結果、以前から気にしていた「啓北商・社会人経理専門コース」に通うことを先ず考えた。その理由は、期間が二年で会社卒業とピッタリあい、又、自分は工業高校出身のため、異業種の勉強に少し興味をもつたのも事実である。(隣の

芝生は青いと言うのと良く似ている。)以前卒業した学校から、卒業証明書等を取り寄せて、早速入学手続きを行なった。一方、啓北商は夜の部であり、昼はどうするか?。しばらく検討を加える。ある時友人から「教育訓練給付金制度」を聞き、専門学校に通学して、指定講座を受けると出席日数にもよるが受講料の八〇%が戻る制度である。勉強まで教わって更に一部が戻る制度、これは有難いと早速「宅地建物取引主任者」の講座を受講開始する。

約三十九年間サラリーマン生活をしてきたことから、朝決まった時間に出かけ、夜に帰宅するパターンが身に染みており、それを外すとなぜか落ちこぼれたような錯覚に陥る。今回の計画で昼の部、夜の部とも埋まり、時間帯は違つても以前と同じような通勤ならぬ、通学パターンが誕生した。さらに良かったことは、夜の部は懐かしい給食がついた。この給食のメリットは大きかった。一、決まった時間に食事、かつ栄養士がカロリー計算した献立が毎日。二、家内が夜の献立でありあまり悩まなくて済んだ筈。(自分としてはこの方が最も大きなメリットと考えている。妻へのささやかなプレゼントになった?。)

約十ヶ月の「宅建講座」を受けるため、自宅から大通六丁目まで自転車を活用してみた。片道40分は最初慣れるまではつらいものがあったが、健康のためにと頑張った。車やバスと違って、その日の気分を通る道を変えられるので、自称「街角探検隊」と称して時間の許す限り違う道を走り、大いに気分転換が図れた。又、天気の良い日など大通六丁目のベンチでランチタイム。すると近くのサラリーマ

ンがあくせくと往来していくのを見て、以前の自分も同じだったなあ。「太陽の陽射しを一杯受け、今の自分は何と幸せなのだろう！」と肌で感じた次第である。有難さを実感できるほど気持ちに余裕ができた。

夜の部は簿記、情報処理の学習で、三年生は必修制、四年生は簿記会計コースと情報処理コースの選択制である。

入学時は定員枠の四十名でスタートしたが、一年経過してみると約半分に減少した。その理由は夫々違うが、仕事をしてから学校に通うのはかなり困難があるし、又、家庭の主婦もかなり負担があるので、廻りの協力がないと中々続かないのが現状である。生徒同士は給食、ホームルーム時間等にお互いに声を掛け合っているが、それでも救えない場面が出てくる。例えば、会社に通学しているのが知られて、気まずい関係になったりして退学。(本来、定時以降なので、干渉される必要もない筈なのに何故か？ 自己啓発のために通学するのだから悪くない筈なのに?)

自分は冒頭に述べたとおり、仕事にして通学できるのだからこんな有難いことではなく、誰よりも恵まれていると感謝した。通学期間はほぼ普通の高校生と一緒に春、夏&冬休みがきちつとある。毎日夜に通っていると、さほど自分には負担になっていないと思っていたが、休みが待ち遠しいことを考えると、ストレスが若干溜まってきたようだ。適当に休みが入り、ストレス解消に役立つ。

又、一年間に数回「映画鑑賞会」があり、高校生対象の映画であるが、映画館に行く、授業に出席となる。この有難い制度のおかげで、久しぶりに映画館に行くことができた。はよりの映画の話題で花が咲いた。

二年目に入った時、体調が少しつらく

感じたので、近くの病院で診察・詳細検査を受けた。結果は、立派な「糖尿病」です。と言われ呆然とした。早速食事・運動療法の説明を受け、実践する。先生は何故「薬」を出してくれないのかと不審に思ったが、これは愚問であった。「薬」を出すのはかなり悪いケースであり、先ず食事・運動療法で改善することが先決だとあとで知った。

先ず、食事改善として、昼食は最近はやりの「ビール酵母」を試しに利用し、食パン一枚と野菜少々をメニューに変更した。(間食は一切禁止)

次に運動療法として、毎日三十分位ウォーキング等を検討したが、継続しないと意味がないので、琴似に昨年末完成した「西健康づくりセンター」を訪問し、体力テストに基づいた個人メニューを作ってもらおう。途中でマンネリ化を防ぐ意味でメニューの見直ししてもらえらる。二月二十八日現在、百八十回利用した結果、「糖尿病」に関するデータは健康人と変わらぬところまで改善ができた。これは「決めたらやり遂げる」という精神力だけでは中々続かないと思うが、自分の場合は無職なのが幸いし、専念できる環境にあつたからで、これが現役だとうしても仕事を優先せざるを得ない場面が出てくると考える。そんな意味でも自分は早期退社が病氣治療の観点からも正解であつたと思つている。午前中は運動で汗を流し、夕方は啓北商に行き冷や汗をかき、二十二時過ぎに帰宅の毎日である。時間帯は少し遅いが、学校に通うようになってから、給食以降は食べないし、アルコールも飲まない習慣がついた。少し友人との付き合いが悪いとわかつていたが、二年間の期限付きで「容赦願った。

将来、学校を卒業した時を想定し、現在「道民カレッジ」の講座を受講開始し

た。先ずは、エルネットオープンカレッジ「北の文化―考古学と言語から」札幌学院大学の講座を「かである2・7」で受講、次に、大学放送講座「北海道の人づくり、地域づくり」を受講し、感想文を纏めのである。「道民カレッジ」も平成14年度からは、放送大学との連携を計画と聞くので、メニューも増えることが学習意欲にもつながるので、大変有難く実現を歓迎している。

又、「道民カレッジ」に似た制度で、さつぽろ「市民カレッジ」が自宅の近くに施設があり、中味を覗くと比較的入りやすい魅力あるメニューが多いようだ。今後、学校の時間と調整の上、大いに活用を考えてゆきたい。

一方、早期退社以来「世の中の動き」が情報不足になると考え、「札幌シニアネット」に加入した。会員が約一四〇名程度、札幌在住者が中心のパソコンを通じたネットワークであるメールリングリストで毎日二十〜三十通のメールを読みながら、世の中には結構年配でありながらパソコンに詳しい方、あるいはデジカメに興味のある方が大変多いことに改めて気が付いた。今は学校に専念し、卒業してから「デジカメ部会」にでも所属し、積極的に活動をしたと思つている。できれば、シニアネットの合言葉である「学びあい、支えあい、つながり合い生き生きしたシニアライフを」に沿った歯車の一枚になり、シニアライフを大いに楽しもう！

最近の新聞に「リストラに聖域なし？あらゆる業種で人減らし」と言う見出しで長期化する景気低迷で各企業はリストラ案を打ち出している。総合電機メーカーの日立も削減人数一万一千人を平成14年3月終了目標で削減計画が進んでいる。自分が二年前に決断した時、決して今の状態を予測できなかった。しかし、世の

中の動きは予想以上のスピードで加速されているのが現実である。自分が後悔しないためにも、現状をしっかりと見詰め、各種情報の中から今何をなすべきか？の選択を行なうべきである。

夜の部も一月にあつた二週間通うと三月には卒業となるので、今は二年間の記録を纏めている。情報処理の授業で卒業記念「CD」を作る予定があり、自分は「CD」の中に何を収容するか思案中であるが、この二年間の過程(宅地建物講座、啓北商通学、糖尿病治療等)を収容し、充実した二年間の記録としたい。誕生日の関係で丁度今が六十歳・還暦である。還暦の歳に糖尿病治療、講座にも自転車通い、又二年間啓北商に皆勤賞で通えたことに感謝し、自分を誉めてやりたい。

サミュエル・ウルマンが作った詩「青春」の一節に「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ」と訳した詩があるが、「心の持ち方が大事なのだ」と言っている。この詩はマッカーサー元帥の座右の銘として戦後間もなく「リーダーズダイジェスト」で紹介された名文句で、国内でも数人の方が翻訳し、親しまれている。自分は人よりも少しだけ好奇心が強く、何にでも首を突っ込む傾向にあるが、今後とも旺盛な好奇心で人生を飾りたい。

又、その時点で出逢つた人との「出逢い」を大切にしたい。「出逢い」それは自分たちが人として生まれてきたからこそ感じる事ができる喜びの瞬間ではないだろうか。それが何かの始まりであつたり、心を支えてくれる宝となつたりもする。人生とは「出逢い」によって織り成されていくものなのかも知れない。

宅建講座、啓北商、糖尿病で通つた健康づくりセンター&札幌シニアネットでの「出逢い」を大切にして、生涯学習で充実した人生を飾りたい。



いつか博士に

蛭川剛之



例年、年賀状の時期になると、「明けましておめでとうございませう」に続く文

面を、少し考える。それには、その年の出来事やら、来年への抱負などを、さらりと綴ること

例えば、檜山支庁に転勤の折には、鷗島や松の岱を逍遙し、江差の人情に

触れていますとか、東京事務所勤務の時には、機会を捉えて江戸の風物詩を

尋ね歩いていきますと、一寸気取って書いたあと、本年は還暦野球の全国大会

ることが多い。

六十八才になり、「晴球・雨読」の

毎日だったのが、道民カレッジに入學してから俄かに忙しくなってきた。講

義が週二回もあつたりするし、土曜日の朝は四時半に起きた。

公開講義のその日は、少しばかり服装などに気を遣う。魅力ある女子学生

や向学心に燃えた女性と、机を並べないとも限らない。

また、玄関先で、知った人から「どちらへ」と声がかかったりする。

「いやなに、一寸大学へ！」この気分がまた堪らない。

生涯学習の精神からは、些か外れているが、これも学習意欲へのご褒美と

思うことにしている。初年度は、エルネット・オープンカレッジなどほっかいどう学を中心

に、三十三単位を頂戴した。平成十四年度には、何とか六十七単

◆視聴覚センターからのお知らせ◆

・視聴覚センターでは、今年も生涯学習にご利用いただくための、時代のニーズに即した学習教材(ビデオ)

○後期新着ビデオ紹介

☆教育・福祉

『ミレニアムの女性たち』

『男が立ちどまるとき』他

☆芸術・芸能

『まんが 日本昔ばなし』

『日本古典芸能大系』他

☆教育 養

『シエイクスピア全集』

『深田久弥の日本百名山』他

☆市民生活・国際理解

『地球と環境二』『弥次・喜多のお年寄りの交通安全』他

☆産業・技術

『セクハラの代償』

『テクノストレス』他

☆学校教育

『小学校英語学習の基本と実践』

『少年犯罪 その罪と罰』他

☆家庭生活・趣味

『在宅介護の基礎と実践』

◆まなびの広場からのお知らせ◆

・当協会では、道内各地の生涯学習への取り組みや成果等を広く道民に紹介することを目的に「まなびの広場」展示コーナーをかざる2・7九階に設置しています。現在、平成十四年度の展示コーナー活用団体を募集しております。展示期間は、原則として一ヶ月間で会場使用料は無料ですが、展示会実施に伴う必要経費は、参加団体の負担となります。詳細につきましては、事業部学習振興課(〇一一―二三二―四一一―内線三六―三四三)までお問い合わせください。

新会員紹介

次の方が新たに賛助会員になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

・個人会員

菅原 忠(深川市)

(敬称は略させていただきます。)

編集後記

東京では記録的に早い桜の開花、北海道では、土色のガスがかかったような黄砂現象、これらは地球温暖化によるものでしょうか。

長い冬が去って、新一年生の明るい笑顔の季節到来です。

道民カレッジも二年目を迎え、基礎づくりの仕上げの年となるよう職員一同努力してまいりますので、皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。